

2025 年度

マンション改修施工管理技術者試験問題

**【問題1】**

建築物の分類に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 躯体工事においてプレキャストコンクリートによる建築は、乾式工法、湿式工法の分類では湿式工法である。
2. 耐火構造は、自身の建物が火災に耐えることを目的とし、主要構造部を一定基準以上の耐火性能を有する鉄筋コンクリート造、れんが造、ブロック造などにする構造である。
3. 制振構造は、建物の基礎及び骨組み等に制振装置(ダンパー)を設けて地震力を吸収し、建物の揺れを小さくする構造である。
4. 免震構造は、建物の基礎及び骨組みなどに免震装置を設けて建物基礎から上階建物に地震エネルギーが伝達しにくくする構造である。

**【問題2】**

コンクリートの材料と特性に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 密実なコンクリートは、中性化速度を遅らせ、耐久性を向上させる。
2. コンクリートは、引張りに強く、圧縮に弱い性質を持っている。
3. コンクリートは、元来強アルカリ性の性質を持ち、竣工時で pH12~13 程度のため、鉄筋を腐食から保護している。
4. コンクリートと鉄筋は、線膨張係数がほぼ等しいため相性がよい。

**【問題3】**

コンクリートに関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. コンクリートに使用される材料は、セメント・骨材・水・各種混和材料である。
2. コンクリートの容積の約50%を骨材が占めている。
3. AE剤、減水剤などの混和材を用いると、ワーカビリティが低下する。
4. スランプの最大値は、普通コンクリートの場合15cm以下とする。

**【問題4】**

マンションの玄関扉及び共用部分手摺に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 住戸の玄関扉は、建築基準法上の特定防火設備に該当し、マンション標準管理規約では共用部分である。
2. 最近の住戸の玄関扉は、表面材が非塩化ビニル鋼板や焼付塗装の化粧鋼板両面フラッシュ扉が主流である。
3. 玄関扉の遮音グレードは日本産業規格（JIS）にて4段階に規定されており、等級数値が小さいほど遮る音の効果は高いとされている。
4. 共用部分のアルミニウム合金製手摺は、表面処理が施されているため、汚れを防ぎ、腐食を抑制している。

**【問題5】**

アルミサッシの性能に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 耐風圧性とは、風を伴う雨に対する防水性を示す。
2. 気密性とは、サッシの隙間から漏れる空気の色を示す。
3. 遮音性とは、外部から透過する音をサッシによってどれくらいの音まで遮ることができるかを示す。
4. 断熱性とは、サッシを通して流れる熱を遮る量を示す。

**【問題6】**

マンションの給水設備に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 給水方式における高置水槽方式は、停電時のポンプ作動停止による一時的な断水時においても高置水槽の残留水が使用できる長所がある。
2. 給水方式における直結増圧給水方式とは、一般的に水道本管から分岐して引き込んだ水を直接増圧給水設備（ポンプ）を経由して各住戸に給水する方式である。
3. 受水槽を設置する給水方式において一般的に受水槽の容量は、マンション全体での1日使用量の10分の1程度で設定する。
4. 各住戸におけるウォーターハンマーによる振動や衝撃音を軽減するためには、ウォーターハンマーを引き起こす機器の近くに緩衝装置（エアチャンバー）を設置する。

**【問題7】**

シーリング材の種類と用途に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 外壁が塗装仕上げのコンクリート壁の亀裂誘発目地にポリウレタン系シーリング材を用いた。
2. ALC版の外壁目地にシリコン系シーリング材を用いた。
3. 外壁のアルミサッシ回りのシーリングにアクリル系シーリング材を用いた。
4. アルミサッシのガラス押えのシーリングに、変成シリコン系シーリング材を用いた。

**【問題8】**

マンションの消防用設備に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 消防用設備等は、その機能により、消防の用に供する設備、消防用水、消火活動上必要な施設の三つに大きく分類されている。
2. 消防用水とは、大規模な建築物の延焼段階の火災に対して、消防の水利を得ることを目的としているが、プールや池は消防の水利に含まれていない。
3. 初期消火用の屋内消火栓設備の種類は、屋内1号消火栓、易操作性1号消火栓、屋内2号消火栓の3種類に分かれているが、屋内1号消火栓は原則として2人以上で作業する。
4. 共同住宅用非常警報設備とは、特定共同住宅等における火災時の避難を支援する設備であり、起動装置、音響装置、操作部等で構成される。

**【問題 9】**

建築基準法の「用語の定義」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

1. 建築物とは、土地に定着する工作物のうち、屋根及び柱若しくは壁を有するもので、附属する塀は含まれない。
2. 共同住宅は、特殊建築物には含まれない。
3. 昇降機は、建築設備に含まれない。
4. 納戸は、居室に含まれない。

**【問題 10】**

消防用設備及び消火活動上必要な施設に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 屋内消火栓設備は、火災が発生した場合に消火の目的で用いる消火設備である。
2. 自動火災報知設備は、火災を早期に発見し、速やかに防火対象物全体へ報知する警報設備である。
3. 非常ベルは、火災時に迅速かつ安全に避難・誘導するための避難設備に該当する。
4. 排煙設備は、消火活動上必要な施設に該当する。

**【問題 1 1】**

建設業法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

1. マンションの改修工事において、建設工事の元請負人があらかじめ発注者より書面による承諾を得た場合には、一括して当該工事を他人に請け負わせることができる。
2. 工事目的物の品質を確保するために、建設工事を請け負ったすべての建設業者は、工事現場に一定の施工実務又は資格を有する者を配置する必要があるが、一般建設業者は請負金額の大小により主任技術者又は監理技術者を配置する。
3. 公共性のある施設若しくは工作物又は多数の者が利用する施設若しくは工作物に関する重要な工事では、すべて工事現場ごとに専任の主任技術者又は監理技術者を配置しなければならない。
4. 発注者から直接建設工事を請け負った特定建設事業者が建築一式工事において7,000万円以上の下請契約を締結する場合には、建設工事の適正な施工を確保するため必ず施工体制台帳を作成しなければならない。

**【問題 1 2】**

国土交通省が公表している「長期修繕計画作成ガイドライン」に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 大規模修繕工事は、建物および設備の性能・機能を新築時と同等の水準に維持、回復させる修繕を基本としている。
2. 計画期間の設定は、30年以上とし、大規模修繕工事が2回含まれる期間以上とする。
3. 単棟型のマンションにおける長期修繕計画は、共用部分の修繕工事に伴うものであり、専有部分の工事をその対象に含むことはできない。
4. 管理組合は、長期修繕計画の作成及び修繕積立金の額の設定に当たって、説明会の開催を必要とする。

**【問題 1 3】**

外壁タイル面の補修工事に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 斜壁部分のタイル張り面の浮きについては、下地に防水層が施されている場合があるので、補修工事の際には十分な下地の調査が必要である。
2. タイル部分張替えとは、直張り及び下地モルタルが健全な場合の張付けモルタルを含めた欠損の場合に適用するものであり、1箇所当たりの面積が1.0㎡程度以上を対象とする。
3. タイルの張替えに際して、下地コンクリートの表面の目荒らしを行って付着力を上げる対策は躯体への影響を考慮し、避けるべきである。
4. タイルの補修工事においてタイル落下による事故を未然に防ぐためには、乾式工法よりも湿式工法を選択するほうが事故の確率は一般的に低い。

**【問題 1 4】**

鉄筋コンクリートの劣化現象及び劣化症状に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 鉄筋露出とは、腐食・膨張した鉄筋が表面のコンクリートを押し出し、露出した状態をいう。
2. エフロレッセンスとは、セメント中の石灰等が水に溶けて表面に染み出し、コンクリート表面に出た白色の物質をいう。
3. コンクリートの剥落とは、浮いていたコンクリートが躯体から剥がれ落ちた状態をいう。
4. コンクリートのポップアウトとは、紫外線や雨水等の劣化要因によってコンクリートの表面に粉末が生じたものをいう。

**【問題 1 5】**

塗膜の劣化に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 塗膜の変退色とは、塗膜内の顔料が変色したり、退色したりする劣化現象である。
2. 鋼製部材の表面の錆は、白錆が発生してから赤錆へと進行する。
3. 外壁塗装の劣化には、光沢低下、浮き、剥がれ等の現象があるが、汚れの付着も劣化現象に含まれる。
4. 紫外線が強い地域では、塗装面の劣化全般の進行が速い傾向にある。

**【問題 1 6】**

マンションの外壁タイル面の補修工事に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. タイル面のひび割れの多くは、タイル自体の伸縮に対する伸縮目地不足が主たる要因である。
2. タイルの浮きは、その多くがタイルと張付けモルタル及び下地モルタルとコンクリートとの界面で発生する。
3. タイルの張替えにおいて、弾性接着材を使用することは、性能低下につながるため一般的に適用されない。
4. タイル部分張替え工法において比較的張り代が薄い場合は、ポリマーセメントモルタルを用いて張付けをする。

**【問題 17】**

塗装面の補修工事に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 補修工事で塗装を塗り重ねる場合は、フィラーを塗布することで接着性を向上することができる。
2. 塗膜の汚れのひとつであるシーリング材の可塑剤移行による汚染を防ぐには、シーリング材の仕様選定を適確に行うとともに、露出となる目地とそれ以外の目地の打ち分けを確実に行う必要がある。
3. バルコニーなどの開放性のある天井の塗装を行う場合は、上階床からの水分の浸透を防ぐため防水塗料を選定する。
4. 鉄部塗装において錆止め塗料を塗布後、上塗材を塗布するまでの工程間隔時間を順守しないと上塗材の付着性能が低下する場合がある。

**【問題 18】**

タイル壁面の調査診断に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 外壁タイルの調査診断には、一次診断と二次診断があるが、全体の外観目視や部分打診は、一次診断に含まれる。
2. タイル面の調査において赤外線装置法が採用される場合があるが、周囲の環境や室内の温度にも影響を受けるため、打診調査などを併用することが好ましい。
3. 小口タイルの引張接着強度の基準は、一般的に  $0.7 \text{ N/mm}^2$  以上とされている。
4. タイル面に見られるひび割れにおいてエフロレッセンスを伴っている場合は、下地コンクリートのひび割れの範囲やその原因も考慮する必要がある。

**【問題 19】**

給水配管の材質に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 水道用亜鉛めっき鋼管は、錆の発生が顕著であるため、現在は新築工事においても使用されていない。
2. 水道用ポリブテン管は、耐熱性、耐食性に優れるが高熱による膨張破壊の恐れがある。
3. 一般配管用ステンレス鋼管は、高価ではあるが耐久性に優れた材料で錆びにくく優れた材料である。
4. 水道用ポリエチレン二層管は、樹脂管であるため紫外線に弱いので地中埋設部に限定して使用される。

**【問題 20】**

建物の各部納まり等に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 屋上のパラペット部分は、コンクリート打設時に浮かし型枠となる場合が多く、コンクリートの締固めが難しい部位であるため、ひび割れが発生しやすい傾向にある。
2. バルコニーや開放廊下の天井先端に設けられる水切り目地は、雨水を天井へ回り込ませないという目的であるが、鉄筋のかぶり不足が生じやすい部位である。
3. バルコニーなどにおけるアルミ手摺の支柱は、部材間の接合部がシールされているので、支柱内部への雨水を含めた水分の浸入などによる劣化のおそれはない。
4. 雨水による外壁の汚れ対策は、壁面上部の水切り金物などの設置が有効である。

**【問題 2 1】**

マンションの給水・給湯設備及び排水設備の改修に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 屋内、屋外を問わず受水槽の更新工事において水槽周囲の点検スペースは、6面確保する。
2. 水道用架橋ポリエチレン管は、耐食性に優れ屋外の露出配管としても多く採用される。
3. 給湯管改修工事においては、耐熱性の硬質塩化ビニルライニング鋼管を使用することがあるが、樹脂管の架橋ポリエチレン管も近年多く使用されている。
4. 共用排水主管の改修工事としては、排水管更新工法が多く採用されるが、特殊排水継手を使用するのが一般的である。

**【問題 2 2】**

マンションの専有部分と共用部分に関する次の記述のうち、マンション標準管理規約によれば、最も適切なものはどれか。

1. 各住戸の玄関扉の錠及び内部塗装部分は、共用部分である。
2. 各住戸の窓枠及び窓ガラスは、専有部分に含まれない。
3. 給水管は、本管から各住戸の水道メーターの手前までが共用部分であり、メーターを含め、以降の配管は専有部分である。
4. 雑排水管及び汚水管は、立て管が共用部分であり、立て管から横引きとなる配管継手は、専有部分である。

**【問題 2 3】**

マンションの法律関係に関する次の記述のうち、建物の区分所有等に関する法律によれば、正しいものはどれか。

1. 共用部分の変更が専有部分の使用に特別の影響を及ぼす場合、その専有部分に賃借人等の占有者が居住しているときは、その占有者の承諾を得なければならない。
2. 大規模修繕工事で共用部分の形状又は効用の著しい変更を伴うものは、区分所有者及び議決権の各4分の3以上の多数による集会の決議で決しなければならない。
3. 本来専有部分となり得る部分を集会室や管理人室として利用するために規約で共用部分とすることができるが、これを第三者に対抗するために登記をする必要はない。
4. 建物の設置又は保存に瑕疵(かし)があったことにより、第三者に損害が生じた場合、その瑕疵(かし)が特定の専有部分にあるときでも、その瑕疵(かし)は共用部分の設置又は保存にあるものとみなされる。

**【問題 2 4】**

マンションにおける次の工事のうち、集会において区分所有者及び議決権の各過半数の議決(普通決議)のできるものは、マンション標準管理規約(単棟型)コメントによればどれか。

1. 建物の躯体部分に相当程度の加工を要する光ファイバーケーブルの敷設
2. 平置駐車場の2層式駐車場への改造
3. 玄関、駐車場への防犯カメラの設置
4. 階段室部分の改造による新たなエレベーターの設置

**【問題 2 5】**

建設業法第 19 条による工事請負契約の締結において、約款として多く使用されている民間連合協定から発行された「マンション修繕工事請負契約約款（令和 5 年 2 月改正）」の利用の手引き及び解説に記載されている事項として最も不適切なものはどれか。

1. 本契約約款は、マンションの共用部分を対象に実施される外壁修繕工事、屋上防水工事、給排水管の更新工事等を想定している。
2. 管理組合法人の分譲マンションの場合、発注者は管理組合となる。
3. 発注者は、分譲マンションにおける管理組合を想定しており、賃貸マンションのオーナーは対象としていない。
4. 受注者は、原則として建設業法に規定する建設業の許可を受けた者で、総合建設会社、専門工事会社、マンション管理会社を想定している。

**【問題 2 6】**

労働安全衛生規則の足場及び「くさび緊結式足場の組立て及び使用に関する技術基準（（一社）仮設工業会）」に関する次の記述のうち、不適切なものはどれか。

1. マンションの改修工事に使用するくさび緊結式足場は、「くさび足場技術基準」に記載されている「住宅工事用のくさび緊結式足場」の組立て及び使用の基準を適用する。
2. マンションの改修工事に使用するくさび緊結式足場の壁つなぎの取付けは、「くさび足場技術基準」において、垂直方向 5.0 m 以下、水平方向 5.5 m 以下とされている。
3. マンションの改修工事に使用する単管足場の使用基準において、建地の間隔は、けた行方向 1.85 m 以下、はり間方向 1.5 m 以下とされている。
4. マンションの改修工事に使用するわく組足場の使用基準においては、最上層及び 5 層以内ごとに水平材を設けるとされている。

**【問題 27】**

住宅の品質確保の促進等に関する法律（以下、品確法という。）及び特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 品確法では、新築住宅における瑕疵担保責任の特例が設けられており、売買契約においては、基本構造部分について引き渡しから20年間の瑕疵担保責任が義務づけられている。
2. 品確法における既存住宅の性能評価では、当該住宅の現況の検査により住まいの劣化や不具合等を明らかにするとともに、個別性能項目ごとの性能評価を受けることもできるとされている。
3. マンションの大規模修繕工事瑕疵保険は、請負工業者に保険の付保が義務づけられている。
4. マンションの大規模修繕工事瑕疵保険の場合、対象となる部位は、一般的に工事請負契約書に記載されている瑕疵担保責任対象部位である。

**【問題 28】**

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

1. この法律において「化学物質」とは、元素及び化合物をいうが、放射性物質も含むとされている。
2. SDS（Safety Data Sheet）制度において経済産業大臣は、本法に基づくSDSの提供を行わない事業者に対しては勧告を行うことができ、当該事業者が勧告に従わなかった場合はその旨を公表することができる。
3. この法律で導入されているPRT R（Pollutant Release and Transfer Register）制度における政令で指定されている対象物質とは、全て発がん性のある化学物質である。
4. マンション修繕工事の現場は、全てPRT R制度の対象事業者である。

**【問題 29】**

廃棄物の処理及び清掃に関する法律において、マンションの改修工事で排出される廃棄物の中で爆発性、毒性、感染性等人体や環境に被害を与えるおそれのある特別管理産業廃棄物に分類されるものは次の記述のうちどれか。

1. 給排水工事における撤去保温材
2. 防水工事における撤去断熱材
3. 外壁工事における塗料洗浄排水
4. 電気工事における電気配線

**【問題 30】**

景観法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. この法律の基本理念として良好な景観の形成は、現にある景観の保全のみならず、新たに良好な景観を創出することも含むとある。
2. この法律における事業者の責務は、法の基本理念にのっとり、土地の利用等の事業活動に関し、良好な景観の形成に自ら努めると共に、国又は地方公共団体が実施する良好な景観の形成に関する施策に協力しなければならないとされている。
3. 景観計画区域内で建築物の外観を変更する修繕若しくは模様替を行う場合は、行為の種類、場所、設計又は施工方法などの事項を景観行政団体の長に届けなければならないが、色彩の変更も同様に届出が必要である。
4. 都市計画区域及び準都市計画区域とは、一体の都市として総合的に整備し、開発し、及び保全する必要がある区域を指す。

**【問題 3 1】**

大気汚染防止法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

1. この法律において「粉じん」とは、「特定粉じん」をいい、「一般粉じん」は該当しない。
2. この法律において「ばい煙」とは、燃料その他の物の燃焼又は熱源としての電気の使用に伴い発生するばいじん等をいい、燃焼に伴い発生するいおう酸化物は含まれない。
3. 特定粉じん排出等の作業基準は、特定粉じんの種類及び特定粉じん排出等作業の種類ごとに作業方法基準として、都道府県知事が定める。
4. この法律において「特定工事」とは、特定粉じん排出等作業を伴う建設工事をいう。

**【問題 3 2】**

マンションの計画修繕工事の工事請負契約に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 修繕工事の契約書類は、工事請負契約書の他、工事請負契約約款、見積要項書、質疑回答書、工程表、工事金額書などで構成される。
2. 工事請負契約の締結に当たっては、建設業法第19条において定められた重要事項を明示した適正な契約書を作成し、工事着工の30日前までに、相互に交付しなければならないとされている。
3. 下請契約においても印紙税は必要であるが、相手方の承諾を得た場合には、Eメールの契約書面によって印紙を貼らないことも認められている。
4. 仕様書と違う工事を行った場合には、債務不履行に該当し、損害賠償請求の対象となる。

**【問題 3 3】**

マンション計画修繕工事の工事現場における健康管理と応急処置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. WBGT 値は、暑熱環境による熱ストレスの評価を行う暑さ指数であり、WBGT 基準値を超える場合は、熱中症対策の改善を図ることが必要である。
2. 作業員が心肺停止に陥ったとき現場で直ちに行う救命法に心肺蘇生法があり、速やかに開始することで救命率が高まるとされている。
3. 熱中症を疑わせる症状が現れた場合は、身体を冷やし、水分及び塩分の摂取を行い、医師の診断や救急隊の要請を行う。
4. 熱傷した場合は、傷の状態にかかわらず、直ちに水道水で患部を冷やすことが重要である。

**【問題 3 4】**

マンション計画修繕工事における諸官庁への申請・届出に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 機械等（足場）設置届の提出先は、労働基準監督署長である。
2. 防火対象物使用開始届の提出先は、消防長である。
3. 給水申込書の提出先は、水道事業管理者である。
4. 排水設備の工事完了届の提出先は、都道府県知事である。

**【問題 3 5】**

マンション計画修繕工事に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. マンション計画修繕工事では、居住者のプライバシーを特に配慮する必要があり、足場仮設には、一般的に光を通しやすいとされているメッシュシートの使用は極力避けるようにする。
2. バーチャート（横線工程表）は、縦軸に各工事を列挙し、横軸に日数や暦日をとった図で、マンション計画修繕工事では多く使用されている。
3. 枠組足場及びくさび緊結式足場の最大設置高さは、4.5 mである。
4. ゴンドラ足場には、法的な高さの制限はない。

**【問題 3 6】**

マンション計画修繕工事を請負っている施工会社による管理組合及び居住者に対する対応方法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 防犯対策の一つとして、一日で当該作業員と識別できる服装とする。
2. 生活環境対策として、同一住戸のバルコニー側と廊下側が同時施工とならない計画とする。
3. 専有部分内の作業において工事を円滑に進めるためには、管理組合の許可を得て不在住戸の鍵を預かる。
4. 工事用仮設事務所等の設置に当たっては、住戸のプライバシーを考慮して、住戸の居室窓に事務所の開口部が隣接しないように配慮する。

**【問題 37】**

マンションの情報通信設備に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. マンションのテレビ共同受信システムには、屋上に設置したUHF、BS、CS等のアンテナで受信する方式とCATV網で受信する方式がある。
2. 各住戸のテレビ端子への配線は、最近では直列ユニット方式が主流である。
3. マンションの電話配線は、電話局から引き込まれ、住棟内MDF（主配線盤）からIDF（中間配線盤）を経由するのが一般的である。
4. 地上波デジタル放送の特徴は、高画質で高音質のサービスの提供やインターネットとの組み合わせによる双方向通信である。

**【問題 38】**

マンションの消防用設備改修工事において、甲種消防設備士の資格で行えない工事は次の記述のうち、どれか。

1. 屋内消火栓設備
2. 不活性ガス消火設備
3. 金属製避難はしご
4. 誘導灯

**【問題 39】**

建築用シーリング材の特性に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 不定形シーリング材には、大きく分けて1成分形と2成分形の2種類があるが、空气中で自然に硬化するのは、2成分形である。
2. 建物の外壁用シーリング防水に要求される主たる機能とは追従性、接着性、耐久性、非汚染性等である。
3. 部材接合部に使用されるシーリング材には、水密性、気密性が要求され、接着性を高めるために、一般的にプライマーを併用する。
4. シーリング材のノンブリードタイプとは、汚染しにくい材料である。

**【問題 40】**

マンション計画修繕工事における屋根、屋上の防水工事に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 勾配屋根に採用する防水工法の防水層の仕上げは、一般的に露出仕上げであり、断熱工法、非断熱工法どちらも可能である。
2. 歩行用屋上防水工法として、保護仕上げでは断熱工法を採用できるが、露出仕上げでは断熱工法は採用できない。
3. 屋上の駐車場用防水工法は、一般的に保護仕上げであり、露出仕上げは採用しない。
4. 植栽用屋上防水工法とは、密着工法で施工され、防水用ポリエステル樹脂とガラスマットを積層して防水層を作る工法であり、防水層の仕上げは露出仕上げである。

**【問題 4 1】**

マンション計画修繕工事のシーリング工事に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. RC造壁にあるノンワーキングジョイント目地のシーリング材には、シリコーン系シーリング材が適している。
2. 既存シーリング材の撤去に際しては、バックアップ材の再利用が可能かの検討も重要なことである。
3. シーリング工事の養生に使用したマスキングテープを除去するときには、シーリング材が硬化したことを確認する。
4. シーリングの修繕工事では、一般的に既存シール材は全面撤去が原則である。

**【問題 4 2】**

マンション計画修繕工事における給水管改修工事に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 給水管の保温材としてロックウールやグラスウールが使用されるが、配管流水音の消音対策としての効果はない。
2. 更新工法とは、劣化した既存の給水管を撤去してステンレス管や樹脂管などの配管に交換する工法である。
3. 一般的に給水管の水圧試験は、保温工事の施工前に行う。
4. 流し、洗面器などに水栓類を設置する場合は、適切な吐水口空間を設けなければならない。

【問題43】

設備関連の改修工事における次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. インターネット設備工事でF T T H方式とは、基本的に光ケーブルを各住戸まで引く方式である。
2. 住棟内借室に設置してある電力会社の受変電設備を屋外に移設する工事は、一定の要件を満たせば可能な工事といえる。
3. 給水管の引き込み形式として「直結直圧方式」を選択する場合、道路埋設の水道本管の供給水圧が0.1 Mpa 以上あれば平地5階建てのマンションへの給水は、一般的に可能である。
4. 給水管更新工事の見積書に記載されている配管材料「PEP」という略称は、水道用架橋ポリエチレン管のことである。

【問題44】

マンション計画修繕における建築改良工事に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 共用部分の階段及び踊り場に壁付けの手すりを新設する場合、手すりの高さが50 cm以下かつ出幅が10 cm以下ならば階段及び踊り場の法的有効幅員は、手すりがないものとして算定することができる。
2. 開放廊下の手すりの一部を金属製の手すりに交換する場合は、縦格子の隙間寸法を120 mm以下とする。
3. エントランスアプローチにスロープを新設する場合は、有効幅員90 cm以上、勾配1/6以下及び床面の防滑仕様を確認する必要がある。
4. アルミサッシの取り替え工法には、かぶせ工法や撤去・新設工法等があるが、かぶせ工法の中のカバー工法においては、アルミサッシの有効寸法は取り替え前と基本的に変わらない。

**【問題45】**

マンションの計画修繕工事における保険に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 第三者賠償責任保険は、工事を行う被保険者の過失等により、他人の生命、身体を害し、又は財産を損壊したことにより被保険者が負担する損害賠償の保険である。
2. 労働災害保険は、労働者を使用するすべての事業所が強制的に適用事業所となる。
3. 建設工事保険は、事故により工事の目的物等に生じた損害に対して保険金が支払われるものであり、特約によって設計の欠陥に起因する事故によって生じた損害を対象とすることはできない。
4. 組立保険は、主に冷暖房、電気設備、ボイラー、タンク、発電プラントなどの組立工事や据付工事が対象となる。

**【問題46】 記述問題**

マンション修繕工事の仮設計画作成において、居住者対策として留意するポイントを5つ箇条書きで解答欄に記述しなさい。

1. \_\_\_\_\_
2. \_\_\_\_\_
3. \_\_\_\_\_
4. \_\_\_\_\_
5. \_\_\_\_\_

**【問題47】 記述問題**

マンション修繕工事請負契約書に記載しなくてはならない事項を5つ箇条書きで解答欄に記述しなさい。

1. \_\_\_\_\_
2. \_\_\_\_\_
3. \_\_\_\_\_
4. \_\_\_\_\_
5. \_\_\_\_\_